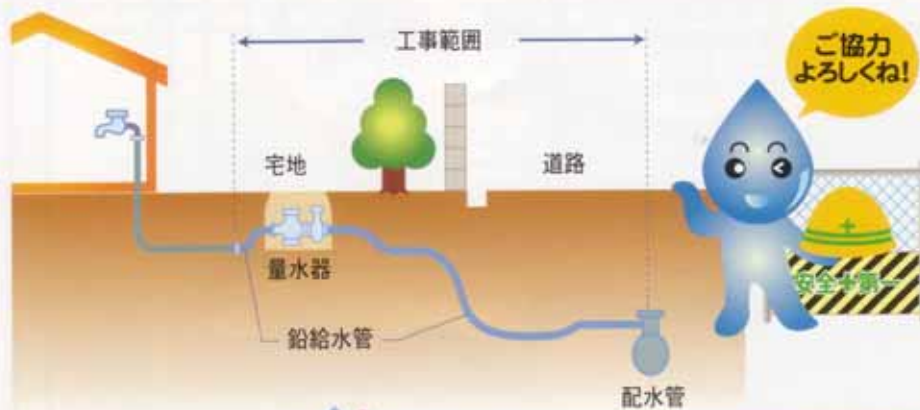


鉛給水管布設替事業 スタート

鉛管は、柔らかくて加工や修理が容易なので、水道が普及し始めたころから道路に埋まっている配水管と各家庭の水道メーターをつなぐ給水管などに広く使われていました。

那覇市では、昭和8年の水道事業創設から昭和63年まで、給水管として鉛管を使用してきました。しかし、水道中への鉛溶出问题で厚生省から通知があり、平成元年からはポリエチレン管に変更し、既設の鉛給水管については配水管布設替工事等の際、随時取り替えてきています。

鉛の水道水質基準値が平成4年12月には、従来の『0.1mg/ℓ』から『0.05mg/ℓ』に改正され、平成15年度には『0.01mg/ℓ』に一層の低減化がはかれることから、水道局としては、平成14年度から新たに鉛給水管布設替事業をスタートさせました。



計画では、市を五地区に分け、年間布設替予定件数の二五〇〇件をバランスよく配分し、平成二十二年度の事業完了に向けて取り残しのないように実施する予定です。
つきましては、当事業にかかる地域の皆様には、調査や工事の際のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

お問合せ先 管理課(八三三―四二七七)

長時間の滞留水について

旅行などで家を留守にしたときや朝一番の水道水については、給水管内に長時間滞留しているため、鉛の濃度が普段よりわずかに高くなることがあります。最初のバケツ半分程度はトイレや庭木にまくなど飲料以外に使っていただくことをおすすめします。

泊配水池が完成しました



通水式でバルブを開く、高嶺晃那覇市水道事業管理者、翁長雄志那覇市長、我那覇生隆那覇市議会議長（右から）

那 覇新都心地区に建設中であった泊配水池（表紙の写真）が完成し、平成14年9月2日に通水式が行われました。

那覇市では最大の配水池で有効容量は2万 m^3 、約6万人の市民の皆様へ1日4万 m^3 の水を供給することができます。給水区域は安謝から壺川までです。

壁面のデザインは、泊地区が古くから海路の要地として栄えた場所であることから、「山原船」の帆をイメージしました。

